

Title	<Book Review>F. K. Exell, The Land and People of Thailand, Adam and Charles Black, London, 1960,96p.
Author(s)	本岡, 武
Citation	東南アジア研究 (1965), 3(1): 158-158
Issue Date	1965-06
URL	http://hdl.handle.net/2433/55025
Right	
Type	Journal Article
Textversion	publisher

図書紹介

F. K. Exell: *The Land and People of Thailand*. Adam and Charles Black, London, 1960. 96 p.

The Lands and Peoples Series は、すでに44冊刊行されている。その1冊「タイの土地と人」は、すでに1960年に刊行されたが、第2刷が1964年に刊行された。この機会に、本書を紹介しておきたいと思う。

もともと、この叢書は、主としてツーリストを目的に編集されたものである。すなわち、ツーリストが訪れようとする国を、簡単に紹介しようとするものであるが、同時に各著者はすべてその国にかなり長い滞在経験をもったものから選ばれているために、たんなる紹介ではなく、著者の滞在経験がにじみ出た読みものになっている。とくに、ツーリストの興味をもつであろうところ、すなわち自然と人間の側面が重視されている。

この叢書に属する本書も、この技術を、よくそなえている。19項目からなっているが、その項目が、おのずから本書の特色を示すであろう。すなわち、気候・タイ人・バンコク・メナム河・旅行の方法・ジャングル・米・チーク・魚と漁業・タイの歴史(1200—1850)・タイの歴史(1850—1958)・儀式・アヘン・言語・スズ・狩猟・芸術と手工業・レージャー・祭。

この項目から明らかかなように、しかも全体として100ページならずだから、決して専門的な研究書ではない。

しかし、とくに本書をここに紹介するゆえんは、ひとつには、わが国でまだこういったタイ一国についての自然と人間とについて興味深く書かれた紹介書が刊行されていないことである。また、ひとつには、タイへのわが国からの旅行者が多いが、本書が対象とするツーリストだけでなく、専門的調査研究者でも、タイの概況を知らずに、タイに赴く場合が多い。いかに限られた専門領域の研究に従事する場合でも、少なくともタイをフィールド・ワークの対象におくかぎり、タイについて、ある程度のタイあるいはタイ人について

理解が必要だと思う。わたくしは、「タイは回教国だ」と確信してバンコクにこられた専門的研究者に会ったことを思いだす。

もっとも、本書はツーリストのための興味本位に書かれたきらいがないでもない。たとえば、タイ人は人のよい善良な国民そのものであるように描かれてある。短時日の観光客にとっては、これでよいかも知れない。しかし、もし調査研究者がこのつもりでタイにやってきてタイで調査にあたると、とんでもないことになる恐れがある。

また、本書は、ところどころ敘述の不充分なところがある。たとえば、バンコクへは1,000トン以下の船しか入らないとあるが、それは内港のことであり、外港では1万トン近くの船舶まで入れる。また、公認アヘン吸引所のこと書いてあるが、現在では、もう消えさっている。わたくしが、本書がこのたび増刷されたとき、いくつかの諸点は訂正されるべきだったと、この「土地と国民叢書」のために惜しむ。

(本岡 武)

R. R. Rawson: *The Monsoon Lands of Asia*. Hutchinson Educational, London, 1963. 256 p.

本書は「モンスーン・アジア地理」であって、大学1年生のための教科書であることを目的としている。著者は London School of Economics の Senior Lecturer である。

最も興味をひかれる点は、モンスーン・アジアとは、どこを指すかとの、地域設定の問題である。

著者の地域設定についての基本的な考え方として、(1) その地域内部がいかに多様に分化しているとしても、地域全体をつうじての共通的特質がなければならない。(2) しかも、その地域は隣接地域にたいして、根本的な文化上の差異がなければならない。

この考え方にもとづき、モンスーン・アジアの共通的性格を物質的貧困 (material poverty) にあるとする。そして、西南アジアとはイスラム文化で区別さ